

衣替え

2020. 6. 1

本日より水無月、6月である。6月1日は、制服が冬服から夏服に替わる「衣替え」の日である。今年、このタイミングで、県立高等学校の通常の教育活動が再開される。ただし、部活動は6月8日（月）からとなる。

中学校の制服でも衣替えはあるが、多くの学校が移行期間を設定しているため、昔のような衣替えの雰囲気はない。一方、本校の場合は、6月1日から切り替わるため、生徒の姿を見ていると清々しい爽やかな気分になる。これから夏を迎えると同時に、新たなエネルギーが満ちてくる感がある。

また、大人の社会では、「クールビズ」という言葉が浸透してきた。生活様式の一つとして定着してきている。具体的には、男性の場合だが、基本的には5月からネクタイをしなくなる。9月を過ぎ10月になってもネクタイをしなないままである。

このスタイルにも慣れてはきたが、何事もTPOが大切である。場を考えて、必要と判断した場合にはネクタイをするようにしている。

制服というと、福島では中合のことが思い出される。私の息子も娘も制服を新調するために中合福島店のお世話になった思い出がある。そのシーズンになると、毎日毎日多くの生徒と親御さんが来店している。忙しいはずなのに、実に丁寧に対応していただいた。経験豊富な店員さんからのアドバイスも役に立った。

「中合福島店8月末閉店」という大きな見出しが5月27日（水）の朝刊に出た。ショックである。隣のホテル辰巳屋さんがなくなったときも感慨深いものがあった。今度は、福島の人にとってのデパート、デパートと言ったら中合という存在がなくなってしまおう。わかってはいたが、新聞の見出しで見ると寂しさと共に子どもの頃からの思い出が蘇ってきた。

私の小さいときの記憶は、中合デパートと山田デパートである。その後、長崎屋やコルニエツタヤ、エンドウチェーン、さくら野があったこともある。本町十番館というものもあった。中合と山田の間のスペースは「山中公園」などと呼ばれた。その後、ダックシティ山田、福島ビブレと名前を変えてきた山田デパートがなくなり、中合福島店二番館となった。その二番館もなくなり、中合福島店そのものがなくなってしまおう。

今では、お中元とお歳暮の時期、そして大切な方への贈り物を購入したいときくらいしか行っていなかった。ここぞというときの中合であった。そう言えば北海道物産展には何度か足を運んだことがある。すごい賑わいだった。シャワー効果を実感したものだだった。

駅の東口には中合があるのが当たり前だった。福島のシンボルとまでは言わないが、象徴的な存在であることは確かである。中合には、各高等学校の制服がそろっていた。これからはどうなるのだろうか。シーズンになると、中合の制服売り場には、制服に腕を通し、試着しながらサイズを合わせる光景が見られた。そこにはたくさんの笑顔があった。

9月からは、福島の街に中合がないということが、まだピンとこない。福島駅東口の駅前再開発によりできる新しいビルは、商業施設や分譲マンション、ホテル、オフィスなどが入る複合施設となるようである。時の流れを感じずにはいられない。

今年、衣替えと中合がオーバーラップしてしまった。母親に連れられて中合の食堂で食べた“お子様ランチ”はいつまでも忘れられない。